

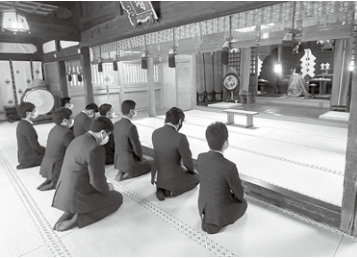
9/3(金) 市長表敬訪問

九月四日から五日まで開催される第六十九回東北青年フォーラムin郡山にあたり、午前十時より郡山市役所への表敬訪問が行われました。品川萬里市長と会した公益社団法人日本青年会議所東北地区協議会会長倉橋龍太郎君は東北青年フォーラムを開催できることへの感謝を述べました。市長はコロナ禍のなかでの準備の大変さをねぎらい東北青年フォーラム成功への期待を込めました。



9/3(金) 大会成功祈願

午前十一時三十分より安積国造神社にて大会成功祈願が行われ倉橋会長はじめ大会役員らが参列しました。安藤智重宮司が祝詞奏上、安積地方の御神楽が奉奏され、倉橋会長、柳沼理事長が玉串を奉奠し、一同本フォーラムの成功を祈り、心を一つにしました。



9/3(金) 大会リハーサル

午後一時三十分からフォーラム本番に向けてのリハーサルを行いました。新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置が発令され急遽、オンライン開催となるなど様々な変更があるなかでの準備でした。



9/4(土) 東北青年フォーラムin郡山オープニング

午前十二時四十五分からホテルハイツ三階平安の間にてオープニングが行われ、郡山市の小・中・高・大学生で構成された管弦楽団「Cutie Strings」による演奏で幕が上がりしました。倉橋会長が開会の挨拶をされ、次いで内堀知事、品川市長よりいただいた歓迎動画メッセージが映されました。開催地理事長として柳沼勝恵君が「東北青年フォーラムin郡山が今の困難

を打破する一助となること、そしてこの困難が終息した後は郡山を心から堪能して欲しい」と挨拶しました。その後、各ファンクションの説明が行われオープニングは閉式しました。



9/4(土) フォーラム1

午後二時四十五分より三時まで同会場で行われたフォーラム1は、リーダーシップ&マネジメントフォーラム、FREED, FLAT, FUN. これからの僕たちに必要なマインド」と題して二部構成で行われました。第一部は伊藤羊一氏の講演が行われ、これからの組織と人に必須なリーダー

シップとマネジメントについて話されました。第二部では金子副会長がコイディネーターとなりトークセッションが行われ講演を聞いた人が具体的な行動を起こせるよう様々な質問を投げかけました。



9/4(土) 郡山青年会議所創立六十周年記念事業1

午後三時三十分より四時四十五分まで同会場で行われたWEB配信のハイブリット方式で郡山青年会議所創立六十周年記念事業の「防災トークショー」が共創る未来への防災バトン」が行われました。福島テレビアナウンサー齋藤恭紀氏をファシリテーターに迎え株式会社

社フラップゼロアルファ代表取締役社長松田哲氏、福島ブロック協議会会長佐々木公一君、郡山青年会議所理事長柳沼勝恵君をパネラーに



9/4(土) フォーラム2

「震災時の体験談」「日頃の防災・減災対策」「これからの時代における防災・減災」について語り合いました。一般参加者からも好評をいただくことができ、不測の災害に対して、事前の備えや知識、情報が重要という意識を啓発するとともに、平時や災害時に地域での防災・減災に主導的な役割を担い、しなやかに対応できるレジリエンスを身につけることの出来るトークショーでありました。

東北青年フォーラム in 郡山
未来を切り拓け！
～開拓者精神で共に奏でよう！東北六重奏～

午後五時十五分より六時三十分まで同会場で行われたフォーラム2は、「意識改革フォーラム 常識は非常識！常識をぶっ壊せ！」と題して二部構成で行われました。第一部は西條勝昭氏より経験を基に常識に囚われない発想をするためのメンタル面について講演されました。第二部ではDX推進室室長の鈴木浩彰君をコディネーターに西條勝昭氏と川崎麻世氏のトークセッションが行われました。

9/5(日) クロージング

午前八時五十分よりWEBにて東北青年フォーラムin郡山のクロージングを配信されました。クロージングでは二〇二二年度東北地区協議会会長候補者が発表され当次年度会長トークセッションが行われた。次年度の方針が示されるなど実りあるトークセッションでした。次いで、次年度の東北青年フォーラム開催地が発表され一般社団法人栗原青年会議所による挨拶動画が映された。残念ながら大会の鍵伝達はフォーラム

終了後に栗原の地で行われる事となりました。最後に開催

地理事長である柳沼勝恵君が挨拶し東北各地のLOMメンバーのご支援協力のもとフォーラムが成功したことについて感謝を述べ閉会となりました。



9/5(日) 郡山青年会議所創立六十周年記念事業2

クロージングの後、郡山女子大学の建学記念講堂にて「MUSIC TOMORROW KORIYAMA」が開催されました。新型コロナウイルス感染症拡大により刻一刻と状況が変化する中、ガイドラインに則り対策を徹底して行うこと、出演者の方もマスク着用等の時代に即した形で行うことで、本事業の開催、発信をした。マスクを外して歌うアーティストの方々には、事前にPCR検査結果または抗原検査の結果の提出を行っていただき、陰性の確認が済んだ上でのパフォーマンスとなりました。

今回の事業では、参加された方々が音楽の力を通じ被災者へ思いを寄せること、これからの復興へとなげいていきたいという想いのもと開催しました。出演者や来場者の皆さんが笑顔になる時間を創れたこと、また展示

